

学校経営委員会報告

工業高等学校の学校経営に関わる調査

- 1 工業科教員等の年代別人数に関する調査
- 2 工業科教員等の過欠員に関する調査
- 3 新規採用教員の選考・採用に関する調査
- 4 工業高校の設備整備に関する調査
- 5 工業科教員の再任用に関する調査

(令和5年10月)

目 次

ま え が き	1
I 研究の目的	2
II 研究の経過	2
III 調査の概要	2
1 調査対象	2
(1) 工業科教員等の年代別人数に関する調査・・・都道府県代表校長	2
(2) 工業科教員等の過欠員に関する調査・・・都道府県代表校長	2
(3) 新規採用教員の選考・採用に関する調査・・・都道府県代表校長	2
(4) 工業高校の設備整備に関する調査・・・都道府県代表校長	2
(5) 工業科教員の再任用に関する調査・・・悉皆調査	2
2 調査内容	2
3 調査上の変更点等	3
4 回収状況	3
5 集計方針	4
IV 調査報告	5
1 工業科教員等の年代別人数に関する調査	5
2 工業科教員等の過欠員に関する調査	9
3 新規採用教員の選考・採用に関する調査	13
4 工業高校の設備整備に関する調査	15
5 工業科教員の再任用に関する調査	16
あ と が き	23
資 料	25
調査回答用紙	
年度別調査項目一覧表	

ま え が き

本委員会では、全国の会員校及び都道府県代表の校長先生方にご協力いただき、学校経営の基盤となる「人材」の状況把握を目的に「工業科の教員の過欠員に関する調査」、「新規採用教員の選考・採用に関する調査」、「工業科教員の再任用に関する調査」を継続的に行い、加えて平成23年度からは、もう一つの基盤である「施設」に関する情報の共有を目的に、「工業高校の設備整備に関する調査」を実施し、今日に至っている。

令和5年度についても全国に調査を依頼し、提出いただいたデータを昨年と同様に6名の委員で集計・分析等を行った。ここにその結果を報告する。

また、今年度も工業科教員等の年齢構成を「工業科教員等の年代別人数に関する調査」という形で調査させていただいた。これは、「新規採用教員の選考・採用に関する調査」、「工業科教員の再任用に関する調査」と連動するもので、調査にあたっては各県の代表校長の先生方にはご苦勞をおかけしたが、工業教育を支えていく人材を計画的に確保していかなければならないという喫緊の課題を今後どのように方向づけしていけばよいのかを検討するための資料として経年変化を見ながら有効に活用していきたいと考えている。

各学校及び各都道府県の工業科への適正かつ組織的な教員配置、また施設設備の更新・新規充実に向けた予算確保等の一助になれば幸いである。

委員長	坂田 安永	東京都立荒川工科高等学校長
副委員長	古藤 一弘	東京都立墨田工科高等学校長
委員	釧持 利治	東京都立蔵前工科高等学校長
委員	立川 健二	神奈川県立小田原城北工業高等学校長
委員	佐久間博正	埼玉県立新座総合技術高等学校長
委員	大岡 正和	千葉県立京葉工業高等学校長

令和5年10月

公益社団法人 全国工業高等学校長協会
調査研究部 学校経営委員会

I 研究の目的

「教員の過欠員に関する調査」、「新規採用教員の選考・採用に関する調査」、「工業科教員の再任用に関する調査」は本委員会の調査研究項目として継続的に調査を行いデータの蓄積を行っている。

さらに、国の産業設備購入費が大幅に減少している現状に鑑み、各都道府県の実態を把握することを目的として「工業高校の設備整備に関する調査」を平成23年度より実施している。

また、工業教育を支えていく人材を計画的に確保していかなければならないという喫緊の課題を今後どのように方向づけしていけばよいのかを検討するための資料として、令和3年度より工業科教員等の年齢構成を「工業科教員等の年代別人数に関する調査」として加えさせていただいた。

本研究会の研究の目的は、継続および新規に実施した各種調査を本年度もデータ蓄積し、全国の動向と経年の変化を把握・分析することと共に、各都道府県の実態を把握することを目的とする。

II 研究の経過

令和5年	3月上旬	アンケート調査用原稿の提出
令和5年	5月上旬	アンケートを会員校に配布
令和5年	6月中旬	アンケート回収
令和5年	6月下旬	アンケート集計
令和5年	8月中旬	報告書内容検討
令和5年	8月下旬	報告書原稿提出
令和5年	10月上旬	報告書完成、発送

III 調査の概要

1 調査対象

- (1) 工業科教員等の年代別人数に関する調査・・・・・・・・・・都道府県代表校長
- (2) 工業科教員等の過欠員に関する調査・・・・・・・・・・都道府県代表校長
- (3) 新規採用教員の選考・採用に関する調査・・・・・・・・・・都道府県代表校長
- (4) 工業高校の設備整備に関する調査・・・・・・・・・・都道府県代表校長
- (5) 工業科教員の再任用に関する調査・・・・・・・・・・悉皆調査

2 調査内容

- (1) 工業科教員等の年代別人数に関する調査

年代別人数に関する調査は今年度で3回目の調査となり、教員等の年齢構成が全国的にどのようなになっているかを把握するための調査内容とした。

- (2) 工業科教員等の過欠員に関する調査

過欠員に関する調査は毎年継続的に調査しているもので、都道府県別に小学科毎の教諭・実習助手の過欠員数とその事由を調査内容としている。

(3) 新規採用教員の選考・採用に関する調査

この調査は都道府県別に小学科ごとの教諭選考状況（新卒・既卒の応募者数、採用数）及び採用者の前歴状況を調査内容としている。

(4) 工業高校の設備整備に関する調査

産業教育設備購入費の削減傾向が続き、一時期の 10 分の 1 以下になっていることを踏まえ、都道府県別の令和 4 年度の工業設備購入費（「都道府県・単独予算での購入費」）を調査内容としている。

(5) 工業科教員の再任用に関する調査

平成 14 年度からの再任用制度の導入に伴い、平成 16 年度より調査を継続している。各学校への悉皆調査として、令和 4 年度末における工業科教員の退職者数、そのうちの再任用者数及び令和 5 年度の工業科の新規採用教員数を調査内容としている。

3 調査上の変更点等

調査については、平成 25 年度より調査回答を本協会の「学校ポータル」より入力し回答する方法に改めた。その際、回答書式の作成に伴い学科名の分類を系列毎に整理統合した。具体的には、従来の「建築系」「設備工業系」「土木系」を「建設系」に、「材料技術系」を「化学系」に、「インテリア系」を「デザイン系」にそれぞれ統合するとともに、これまで「その他」に分類してきた「情報系」「総合系」「一括くくり」を独立させ、「セラミック系」は「窯業系」に名称を変更し調査を行った。

統計資料作成にあたっては、これまでの系統性を維持する観点から、過去のデータについても同様の整理統合を行い、「情報系」を除く「総合系」「一括くくり」については、これまでと同様「その他」として扱うこととした。

また、工業高校の設備整備に関する調査項目については、例年確定できない数値が含まれるという分析等を踏まえて、令和 4 年度は都道府県単独予算のみの調査とした。

年代別人数に関する調査は各都道府県の代表校長先生にご苦勞をいただき調査を実施した。

4 回収状況

都道府県代表校長対象調査は 47 都道府県全ての都道府県から回答があった。各学校への悉皆調査については本年度の会員校 586 校中、悉皆調査 1 の回答を得られた学校は 99.8%、悉皆調査 2 の回答を得られた学校は 98.9%となった。

5 集計方針

- (1) 原則として、回答者の入力したデータのとおり集計した。
- (2) 調査項目1については、全国の年代別人数を集計した表とグラフおよびブロック別グラフを作成し、分析を試みた。
- (3) 調査項目2、3及び5については、昨年度並びに例年のデータと比較がしやすいように、全国を北海道（会員校18校）、東北（同74校）、関東（同113校）、北信越（同48校）、東海（同68校）、近畿（同73校）、中国（同60校）、四国（同27校）、九州（同105校）の9ブロックに分けて集計した。ブロックの分けかたは全国工業高等学校一覧の地区別9ブロックと同様とした。ブロック別に集計したのは例年この方式で集計がなされており、例年の方式を継承したものである。
- (4) 調査項目2及び3については、調査結果をそのまま表として掲示するとともに、できるだけグラフ化した。
- (5) 調査項目4については調査結果をできる限りそのまま表として掲示するとともに、前年度のデータと比較しグラフ化した。
- (6) 調査項目5については、データを示すとともに地域別、全国に分けて経年の変化をグラフ化した。
- (7) 小学科区分は、表のように関連する学科をまとめて9学科系列に分類した。

学科群分類

学科群	含まれる小学科名
機械系	機械、自動車、機械工学、機械システム、生産機械、電子機械 等
情報系	情報技術 等
化学系	工業化学、化学工業、化学工学、環境工学、食品工業 金属工業、材料技術、材料工学、材料科学 等
電気系	電気、電子、電気工学、電気工事 等
窯業系	セラミック、窯業 等
建設系	建築、建築システム、建築木材、設備工業、設備システム 土木、建設、建設工学、建設工業、都市工学 等
繊維系	繊維、繊維工学、繊維工業、色染工業、繊維システム 等
デザイン系	デザイン、インテリアデザイン、工業デザイン、印刷 工芸、インテリア、木材工芸、室内工芸、モダンクラフト 等
その他	総合技術、科学技術、一括くり 等

IV 調査報告

1 工業科教員等の年代別人数に関する調査

(1) 調査結果及び分類

本調査は今年度で3回目の実施となる。教員等の年齢構成が全国および各ブロックでどのようになっているかを把握するための調査内容とし、工業教育を支えていく人材を計画的に確保していかなければならないという喫緊の課題を今後どのように方向づけしていけばよいのかを検討するための資料として実施したものである。

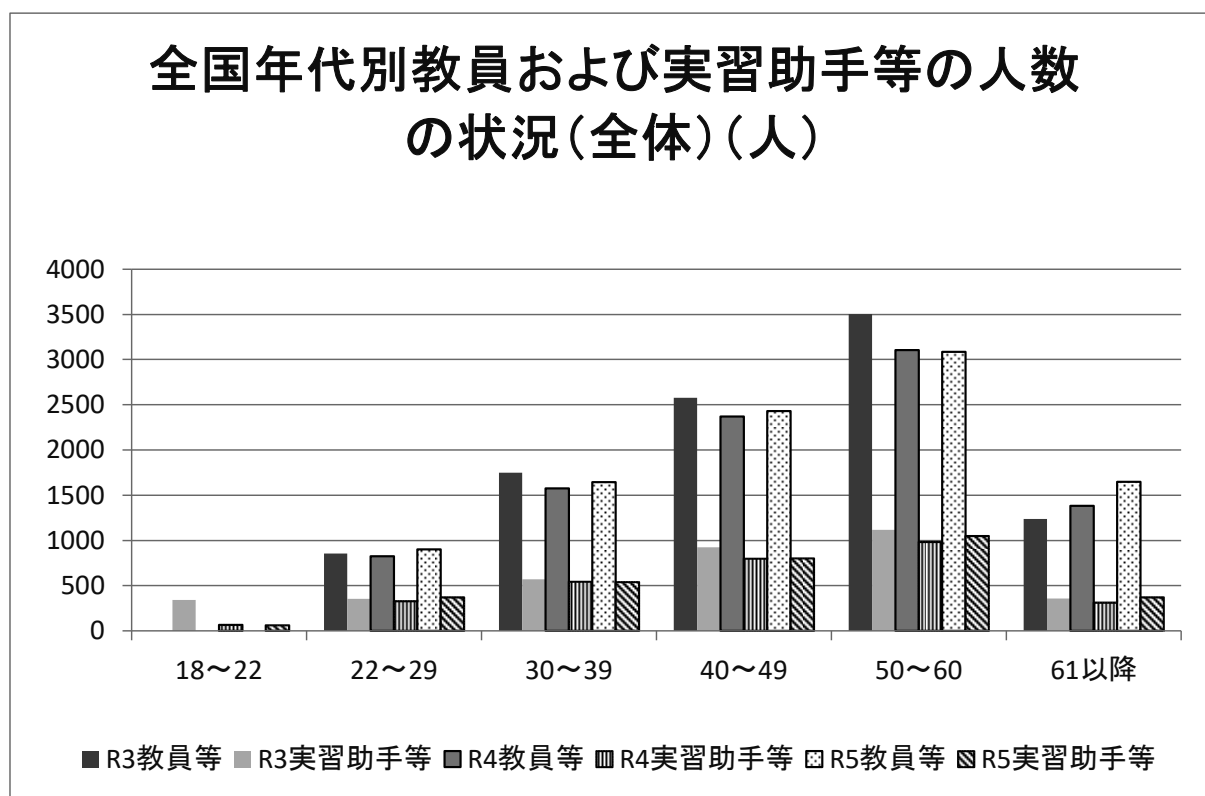
地区区分は全国を9ブロックとした。

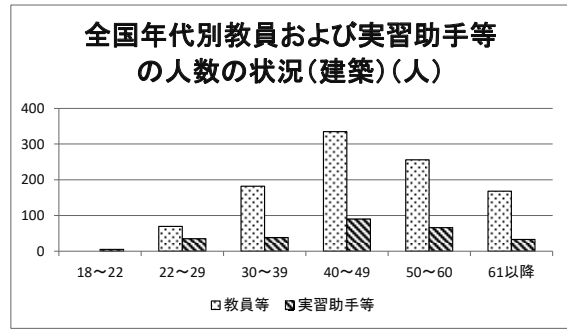
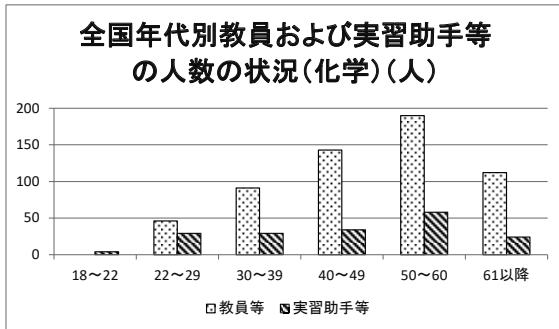
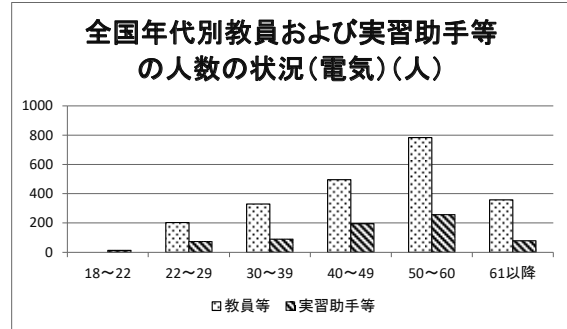
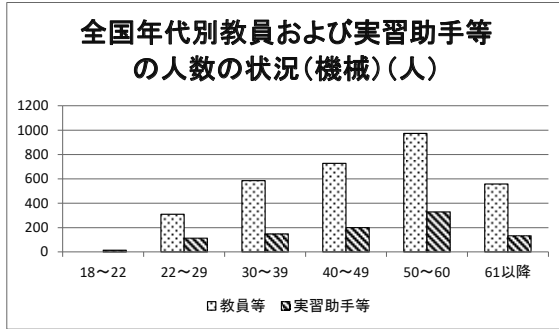
(2) 教員等及び実習助手等の年代別人数の状況

調査結果は、8ページ表1-1のとおりである。

ア 全国の年代別教員および実習助手等の人数の状況

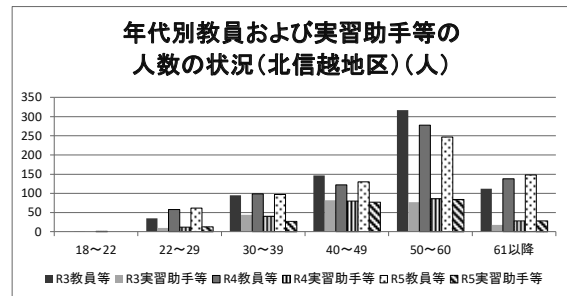
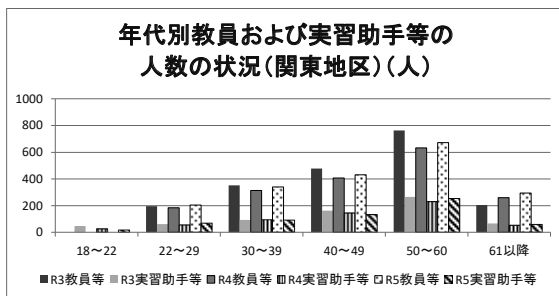
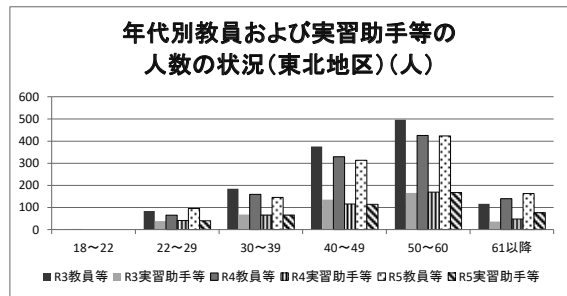
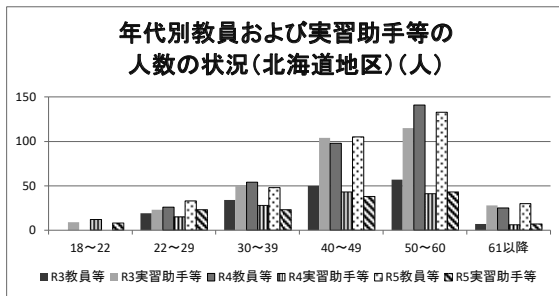
令和5年度の工業科教員等は12,905(12,293)人(教員等9,716(9,263)人、実習助手等3,189(3,030)人)(会員校586(587)校中)で、教員等、実習助手等ともに昨年度と同様50～60代が多くを占めていることがわかる。特に、61歳以降の増加が顕著であり、今後、定年延長に伴い、さらに増加していくと思われる。主要学科系列(機械系、電気系、化学系、建設系)でも同じような傾向があり、工業科教員等の高齢化が進んでいる。20・30代の教員が40～60代の約1/3程度となっている。(カッコ内は昨年度)

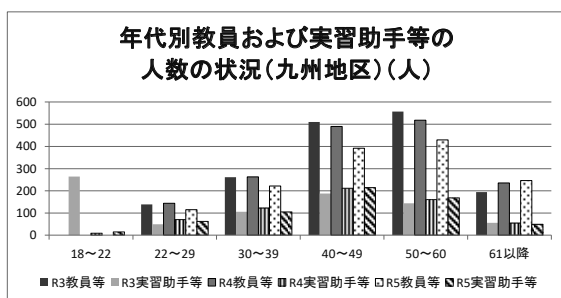
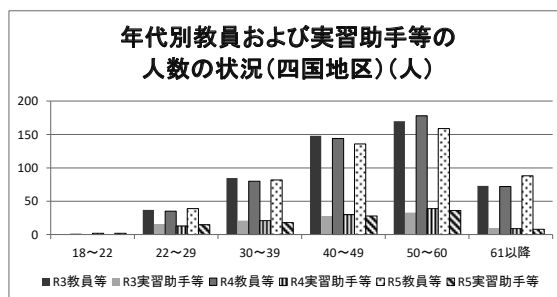
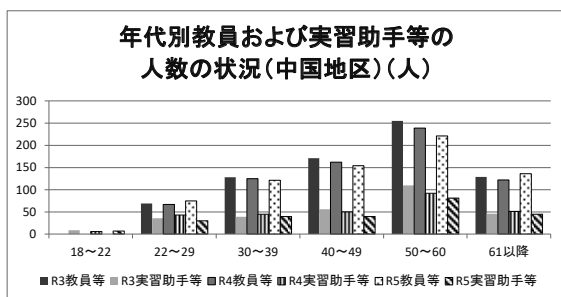
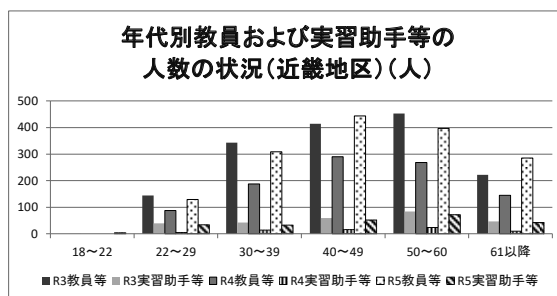
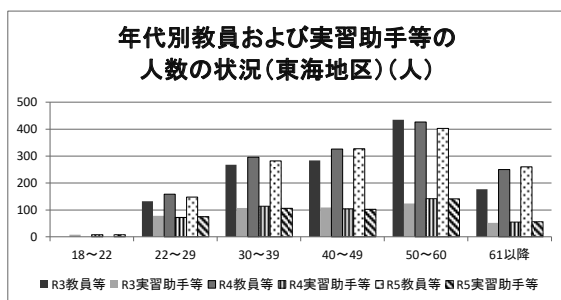




イ ブロック別の年代別教員および実習助手等の人数の状況

以下にブロック別の年代別教員および実習助手等の人数を、令和3年度から令和5年度までをグラフ化したものを示す。(図の棒グラフは左から令和3年度 教諭等、実習助手等、令和4年度 教諭等、実習助手等、令和5年度 教諭等、実習助手等の順)





各地区の年代別人数のグラフを見ると、昨年度と同様に教員数、実習助手等の数が減少しているように読み取れる。また、50～60代が多くを占めていること、60を超えての再任用教諭が昨年度より増えている状況がわかる。一方で20～29代の教員、実習助手等の数が半分程度のブロックで昨年度より僅かではあるが増えている傾向が読み取れる。

以上の調査結果から、工業科教員等の年齢構成が高齢化している傾向は昨年度と変化はなく、このことは、今後の工業教育を牽引する人材が定年延長または再任用制度があるとはいえ先細る状況にあり、近い将来授業における技術技能の継承が危ぶまれると考えられる。

各都道府県ともに少子化で学校再編等が進み、生徒の応募状況も厳しい中、各都道府県の採用を担当する教職員課等には、各校長先生が人事ヒアリング等で要望を出されていると思われるが、今一度、工業科教員等の新規採用者増を要望していただけるようお願いしたい。一方で、大学で教員免許を取得する学生が激減している状況もあり、各ブロックの校長会、全工協会から関係大学への働きかけが急務である。今後も委員会として、調査を継続し、経年変化を見ることで分析を進めていきたいと考えている。

表 1-1 令和 5 年度工業科の全国年代別教員および実習助手等の人数の状況（人）

学科		18～22	22～29	30～39	40～49	50～60	61以降	合計	R04 合計	増減
		機械	教員等	0	309	585	729	973	558	3154
	実習助手等	14	113	147	199	329	132	934	856	78
自動車	教員等	0	8	19	27	33	21	108	140	-32
	実習助手等	0	5	3	5	11	6	30	36	-6
電子機械	教員等	0	36	63	125	135	71	430	411	19
	実習助手等	6	19	65	33	57	14	194	165	29
情報	教員等	0	49	80	115	134	64	442	408	34
	実習助手等	4	8	21	32	52	11	128	131	-3
化学	教員等	0	46	91	143	190	112	582	523	59
	実習助手等	4	29	29	34	58	24	178	153	25
電気	教員等	0	203	330	495	783	358	2169	2115	54
	実習助手等	12	73	89	195	257	78	704	575	129
電子	教員等	0	42	65	103	151	74	435	505	-70
	実習助手等	0	9	16	26	52	16	119	110	9
窯業 セラミック	教員等	0	6	8	17	10	6	47	36	11
	実習助手等	0	1	6	5	4	3	19	15	4
建築	教員等	0	69	182	335	256	168	1010	924	86
	実習助手等	5	35	38	90	66	33	267	263	4
土木	教員等	0	48	84	168	175	89	564	556	8
	実習助手等	2	27	31	50	53	13	176	170	6
設備	教員等	0	9	6	12	18	7	52	50	2
	実習助手等	0	0	2	8	7	2	19	16	3
インテリア	教員等	0	8	16	18	32	12	86	97	-11
	実習助手等	1	8	3	5	7	1	25	27	-2
繊維	教員等	0	1	2	4	8	5	20	25	-5
	実習助手等	0	0	0	2	2	0	4	7	-3
デザイン	教員等	0	30	54	66	67	35	252	244	8
	実習助手等	2	17	16	13	21	6	75	62	13
総合学科	教員等	0	16	30	31	49	22	148	162	-14
	実習助手等	1	6	10	14	15	4	50	69	-19
その他	教員等	0	21	31	45	71	49	217	226	-9
	実習助手等	10	20	63	89	56	29	267	375	-108
合計	R5 教員等	0	901	1646	2433	3085	1651	9716	9263	453
	R5 実習助手	61	370	539	800	1047	372	3189	3030	159
R04 合計	R4 教員等	0	826	1577	2369	3106	1385	9263		
	R4 実習助手	64	327	545	796	984	314	3030		
増減	教員等	0	75	69	64	-21	266	453		
	実習助手等	-3	43	-6	4	63	58	159		

全工協会会員校 586 校の学科別、年代別人数の集計データ

2 工業科教員等の過欠員に関する調査

(1) 調査結果の区分及び分類

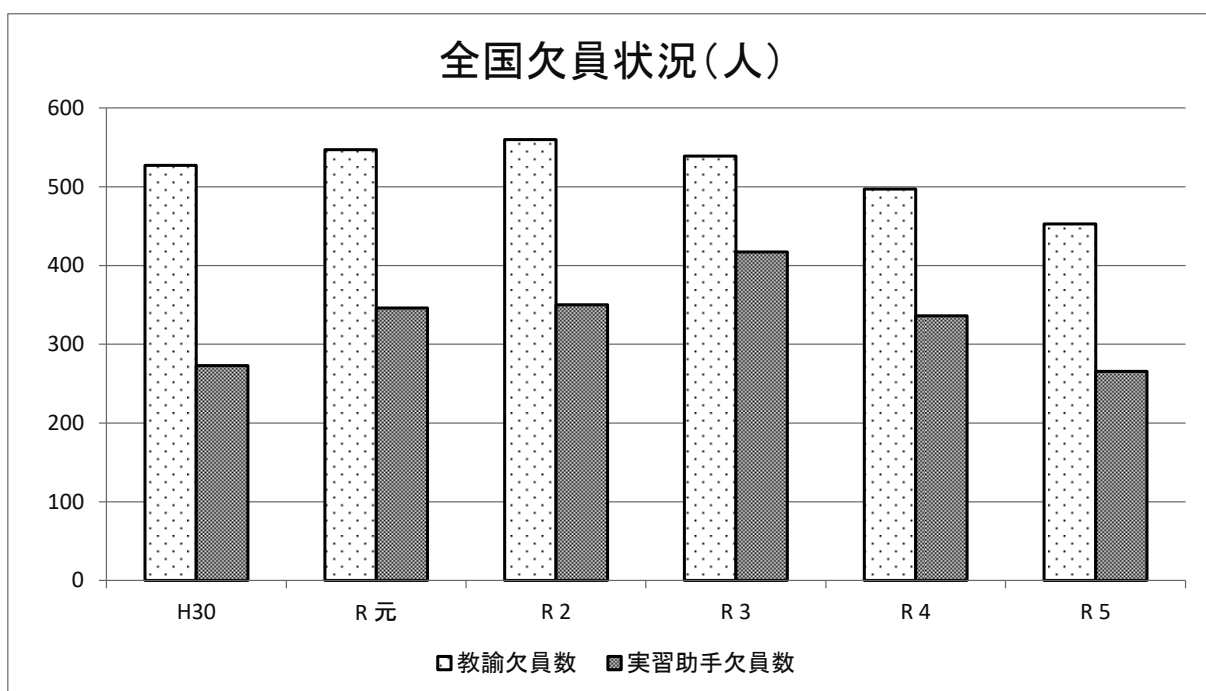
本調査は令和4年度に引き続き実施し、平成30年度以降のデータに基づきその推移を分析したものである。

地区区分及び小学科区分は、地区区分は全国を9ブロックとし、集計方針に示すように関連する小学科をまとめて9学科系列に分類した。

(2) 教諭及び実習助手の欠員状況

調査結果は、18 ページ表2-1及び表2-2のとおりである。

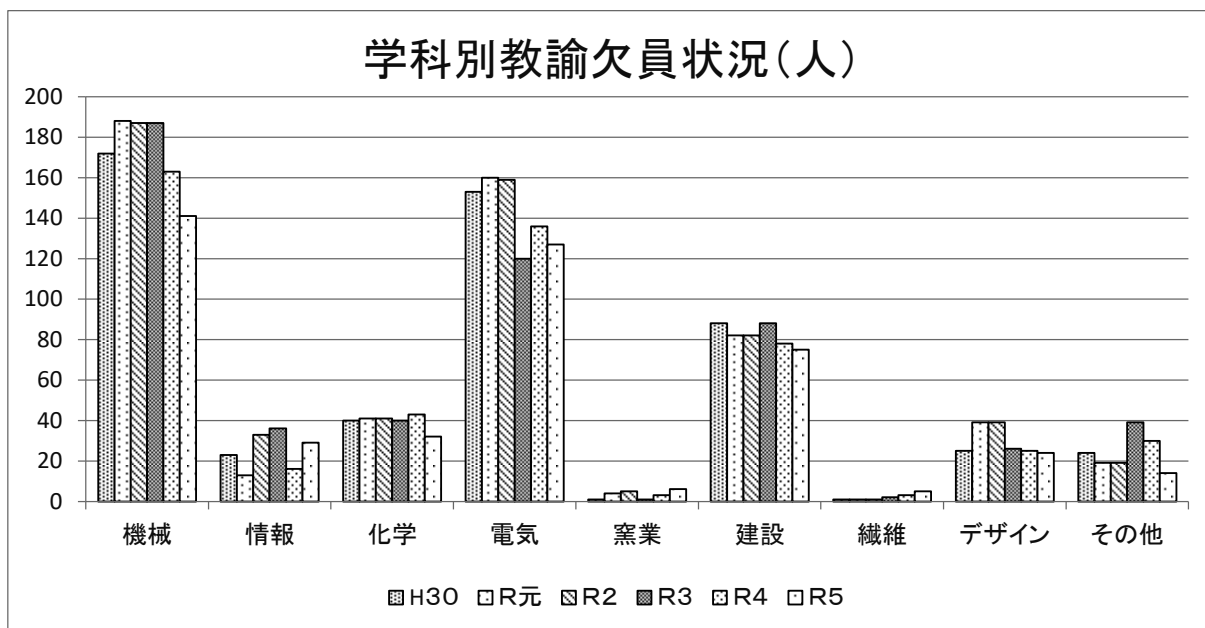
ア 全国の欠員状況



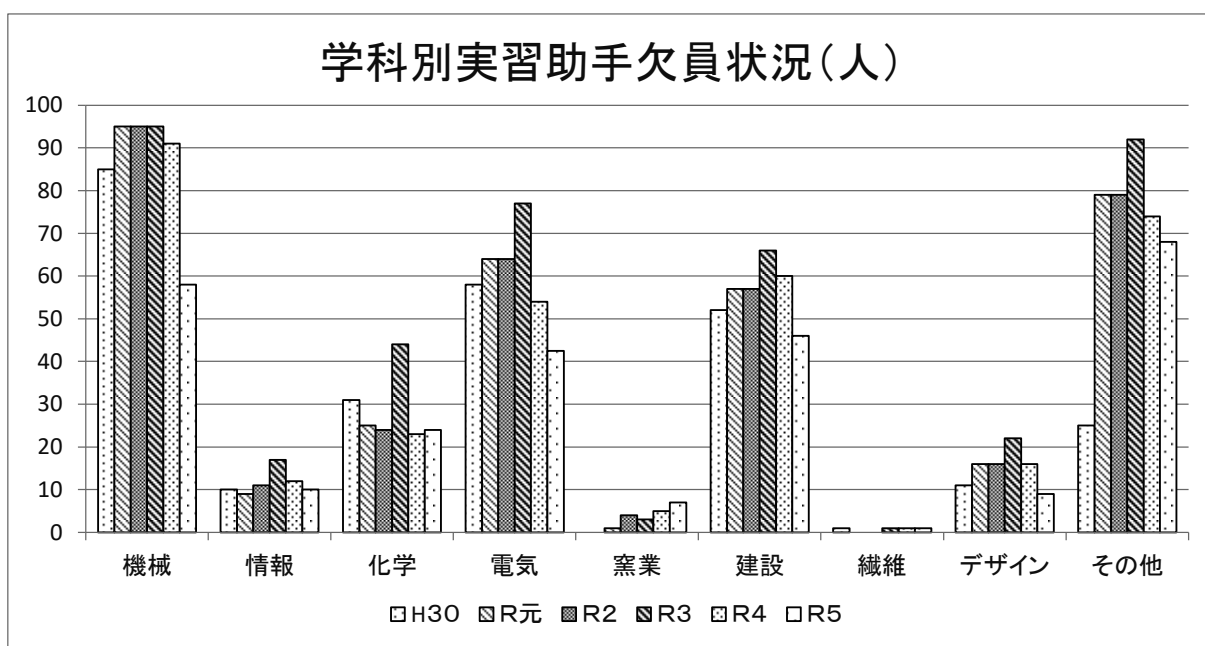
令和5年度工業科教諭の欠員数は453名であった。昨年度は497名で、今年度は昨年度と比べ約9%の減少となった。平成30年度からは約500名前後を推移しており、若干ではあるが増加傾向が見られたが、令和3年度から減少に転じており、令和5年度は400人台半ばまで減少している。

令和5年度実習助手の欠員数は265名であり、昨年度の336名と比べ減少している。

イ 学科別欠員状況

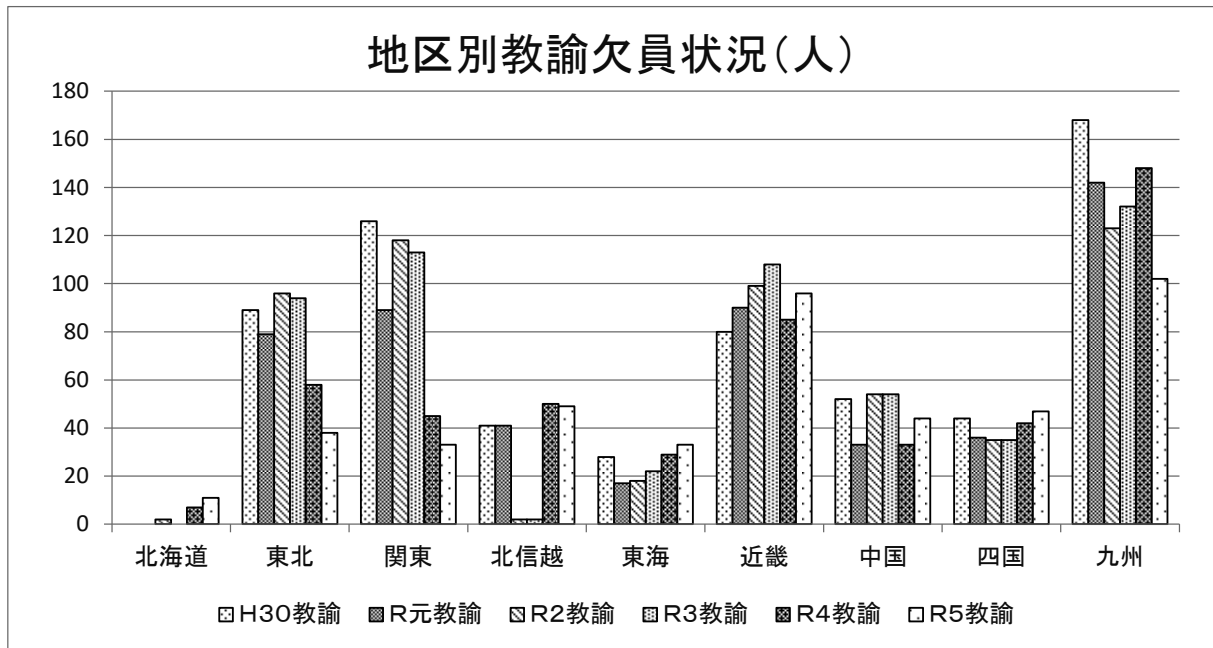


学科別の教諭の欠員数は、各学科系は若干の変動はあるが概ね令和4年度の欠員数と比べ大きな変化は見られなかったが、機械系は前年度と比べ22名減少したが、情報は13名増加した。

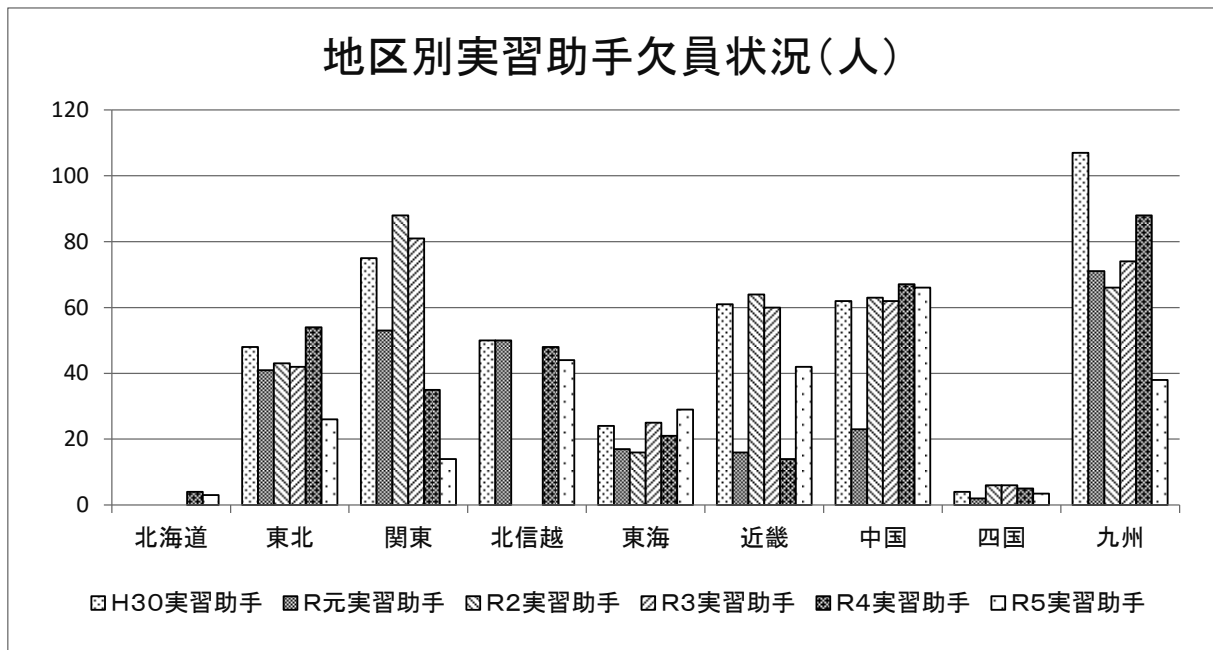


実習助手では、機械が33名減少し、化学と窯業が微増した。他の小学科は令和4年度と比べ、若干の減少は見られるが大きな変化はない。

ウ 地区別欠員状況

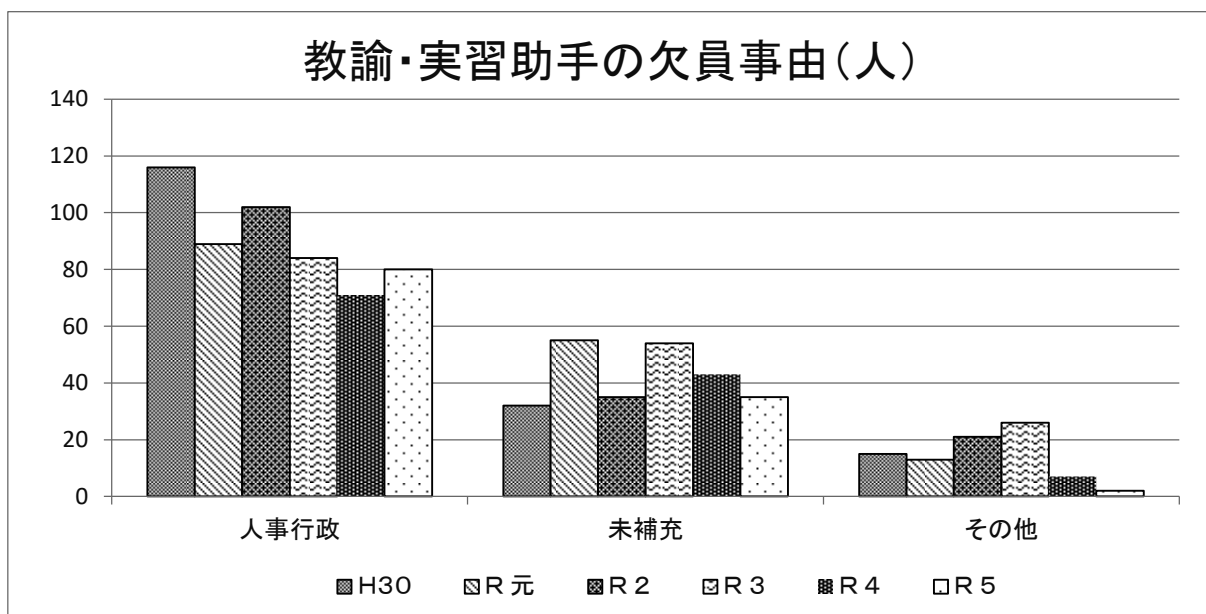


地区別の教諭の欠員状況では、北海道地区、東海地区、近畿地区、四国地区が令和4年度より増加している。一方、東北地区、関東地区、北信越地区、九州地区は減少しており、特に東北地区と九州地区は大きく減少している。



地区別の実習助手の欠員状況については、東海地区、近畿地区で増加している。特に近畿地区は28名増加している。北海道地区、東北地区、関東地区、北信越地区、中国地区、四国地区、九州地区は減少し、特に東北地区は28名、関東地区は21名、九州地区は50名減少した。

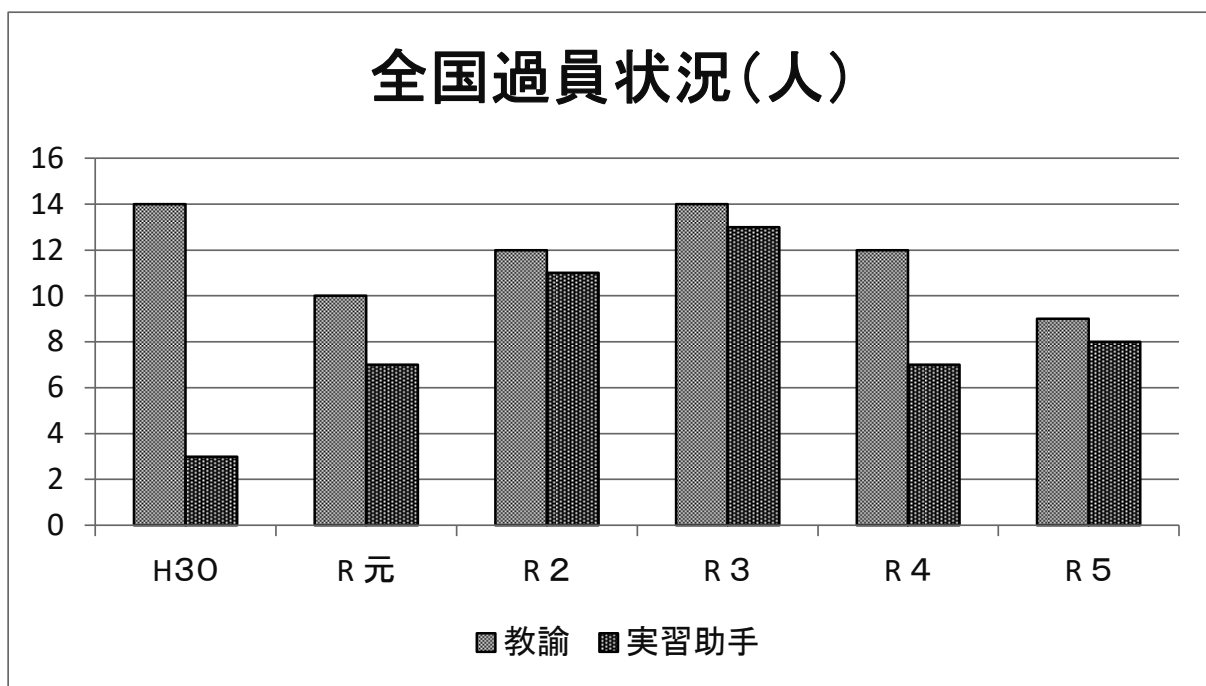
(3) 教諭・実習助手の欠員事由



教諭・実習助手の欠員事由については、例年「人事行政の計画的方策」が最も多い傾向が続いており、令和5年度も状況は変わらない。

(4) 教諭及び実習助手の過員状況

調査結果は、19 ページ表 2 - 3 及び表 2 - 4 のとおりである。



令和5年度の教諭の過員は9名、実習助手の過員は8名である。令和4年度の教諭の過員は12名であったので減少している。また、実習助手の過員は、令和4年度は大きく減少したが令和5年度は微増し、再び増加に転じた。

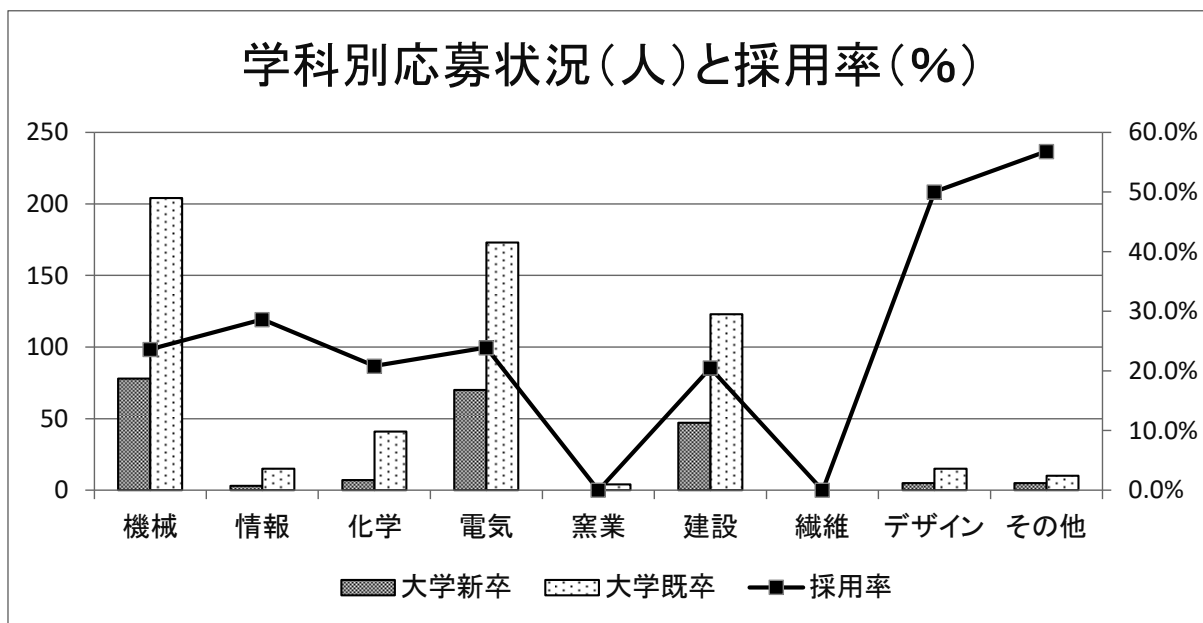
3 新規採用教員の選考・採用に関する調査

(1) 調査の結果及び分類

調査の結果は、20 ページ表 3-1 及び 21 ページ表 3-2 のとおりである。

ア 全国調査

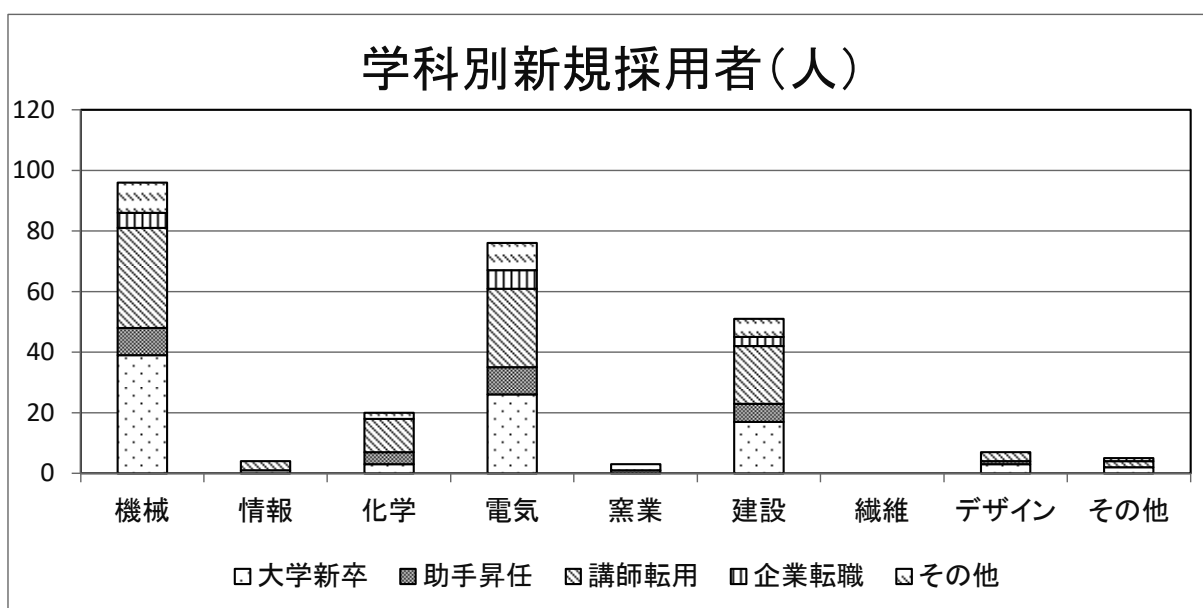
全国での採用者数は 260 名で、昨年度の 294 名に比べて 34 名減少となった。



イ 学科別状況

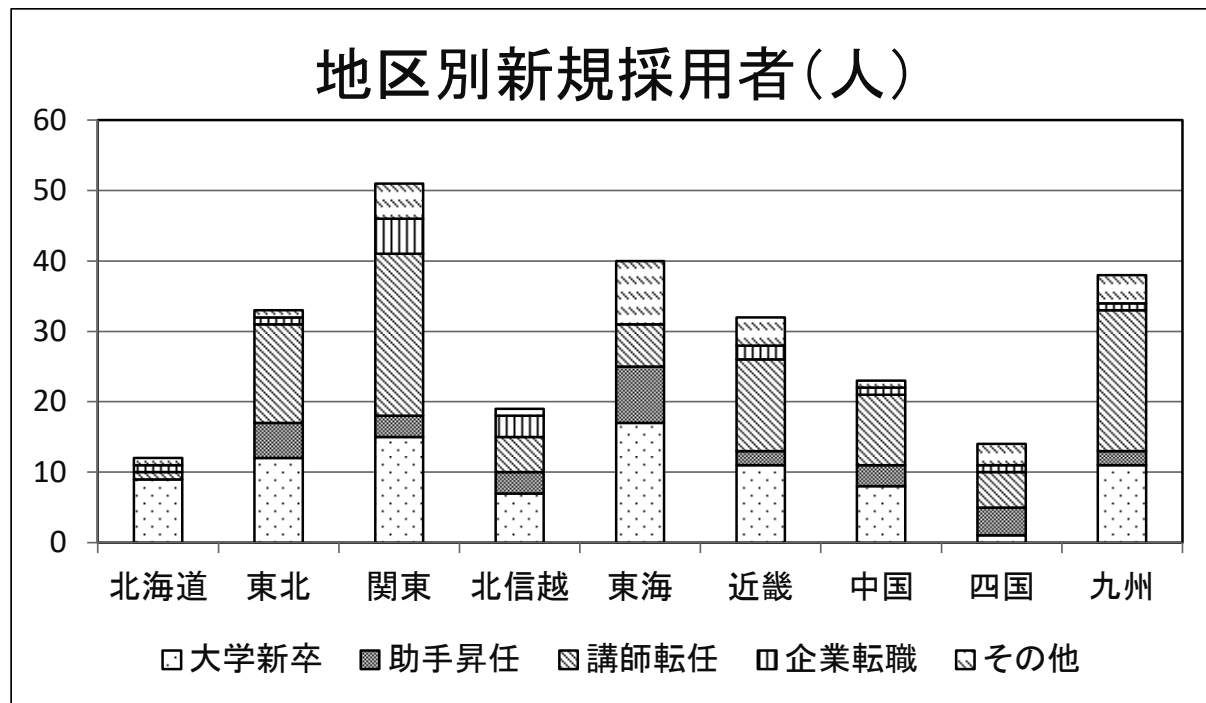
その他の分類には、募集時に学科を指定せず、工業などの括りで採用する場合も含めた。繊維系が昨年度に引き続き全国で採用 0 名であった。また、全国で機械系は 282 名 (320 名) の応募者のうち、96 名 (103 名) が採用となり、採用率が 34.0% (32.2%)、電気系は 243 名 (275 名) の応募者のうち、76 名 (89 名) が採用となり、採用率が 31.3% (32.4%)、建設系は 170 名 (118 名) の応募者のうち、51 名 (44 名) が採用となり、採用率が 30.0% (37.3%) となっている。

() 内は令和 4 年度

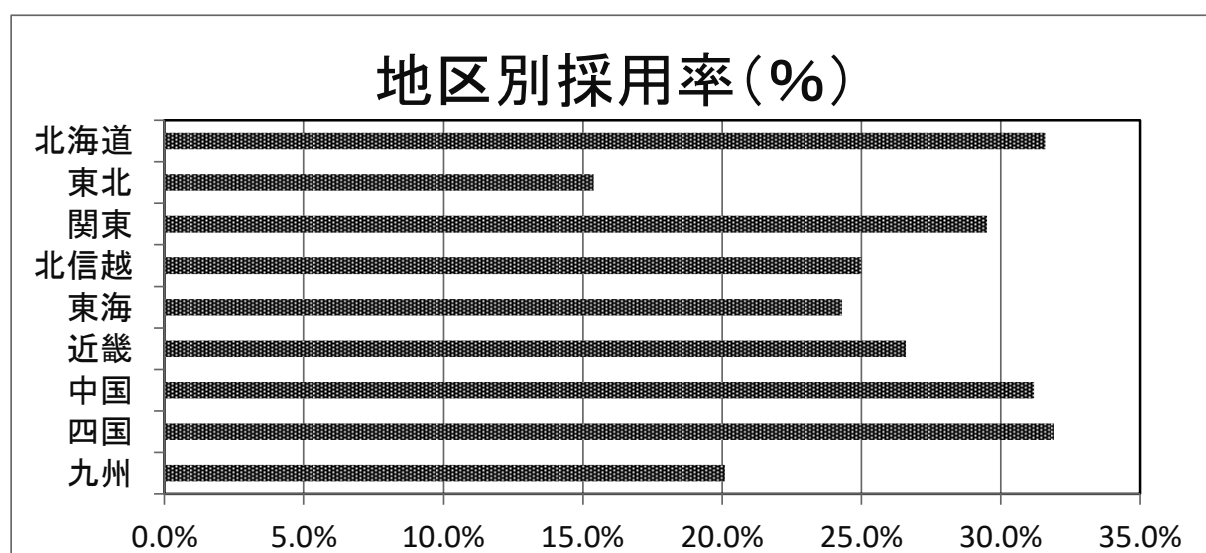


令和4年度と比較し、採用者数は微増した建設系を除きすべての学科で減少している。また、応募数も建設系が増加したものの、それ以外の学科は減少した。

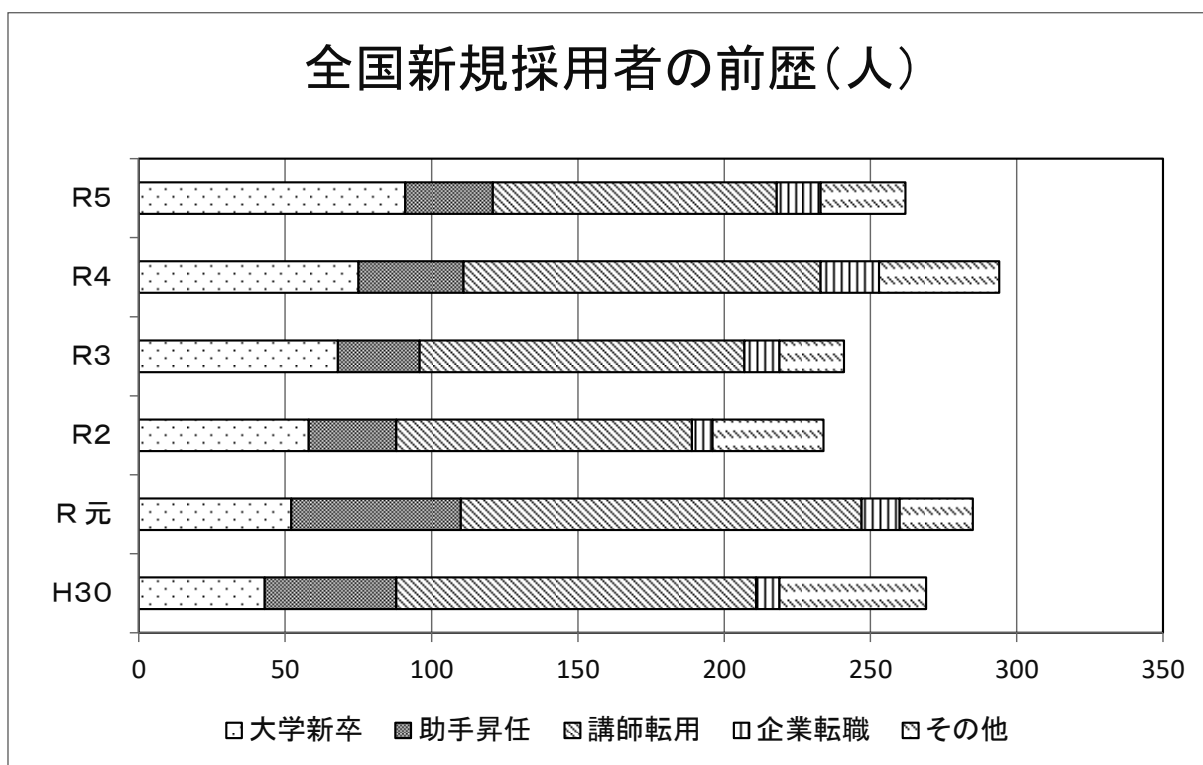
ウ 地区別状況



地区別の傾向としては、昨年度と比べて採用者数に変化はあるが、傾向的には大きな変化は見られない。

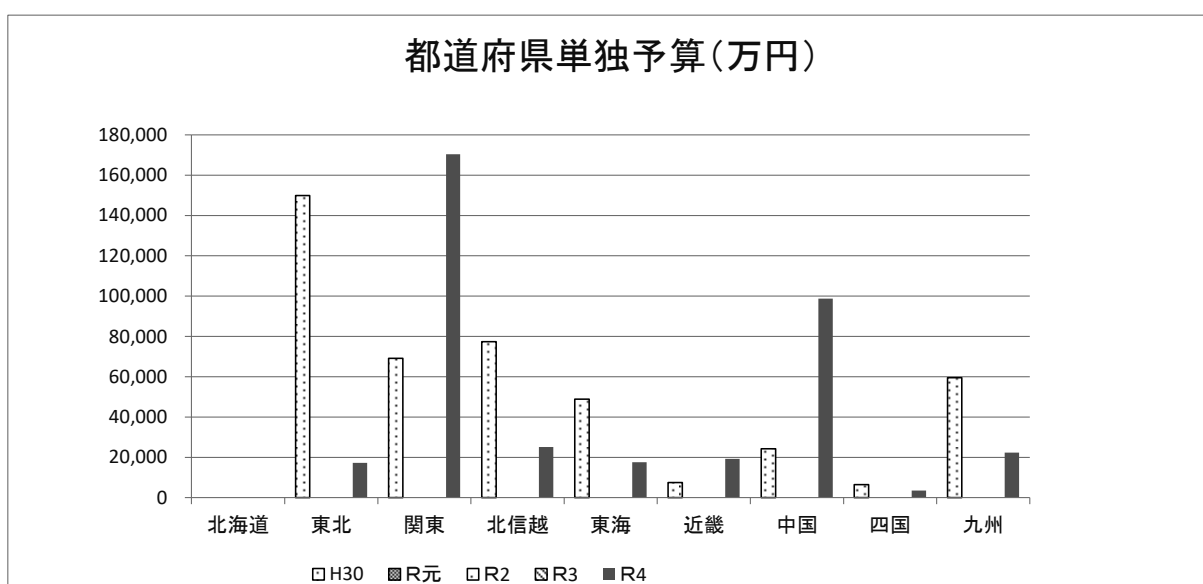


(2) 新規採用者の前歴



令和5年度の新規採用者の前歴は、講師経験者が全体の37.0% (41.5%) を占めている。また、大学新規率が34.7% (25.5%) と実習助手からは約11.5% (12.2%) となり、実習助手からの採用が昨年度と比べて減少した。()内は令和4年度

4 工業高校の設備整備に関する調査

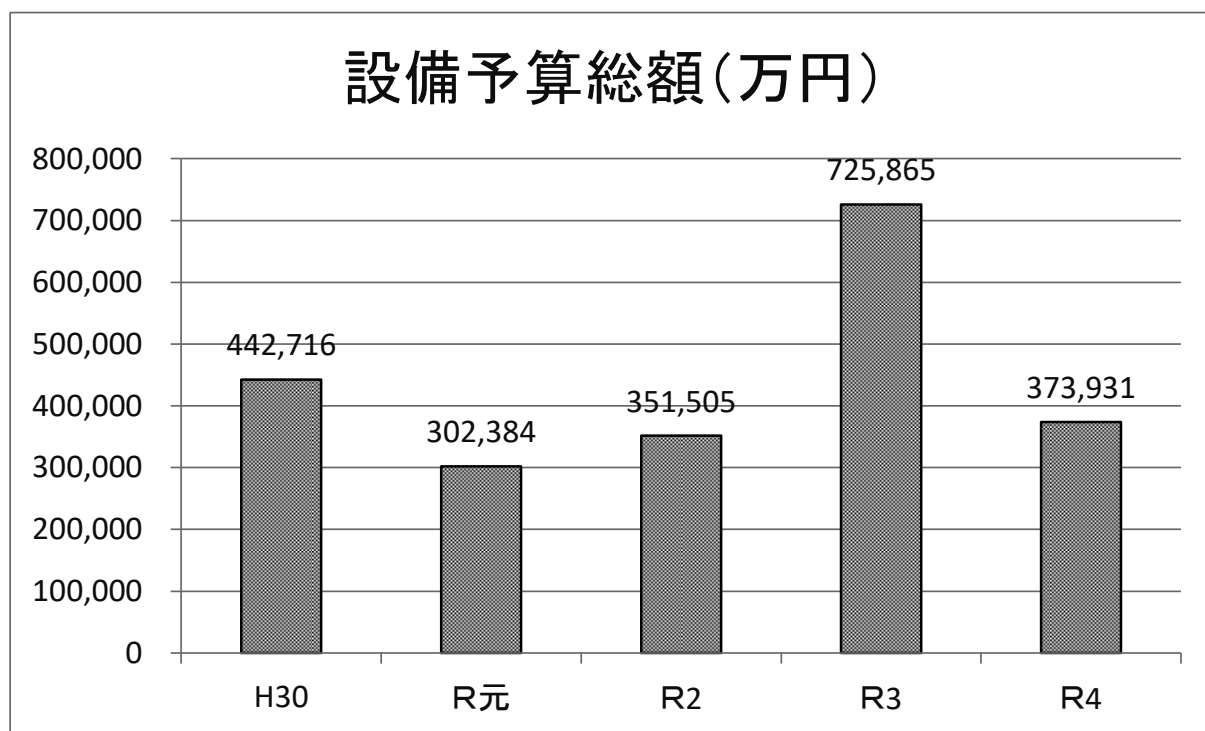


調査結果は、22 ページ表4のとおりである。なお、金額が不明の場合や、確定できない数値も含まれるので、傾向を見るということでご理解をいただきたい。

(1) 都道府県単独予算について

都道府県単独予算については、平成30年度から推移を示す。関東地区と東海地区、近畿地区は増加しており、特に関東地区は東京都の工業高校改革プロジェクトのために予算措置がなされたことが理由と考えられる。東北地区、北信越地区、中国地区、四国地区、九州地区は令和3年度に比べ減少した。

(2) 設備整備予算総額について



予算総額としては、令和3年度約72億5千8百万円に対して、令和4年度は令和3年度に比べ約37億3千9百万円と約48.48%の減少となっている。これは、前回の調査ではスマート専門高校等推進予算の増額分を含めた予算総額であったが、その分が無くなったことも理由の一つである。

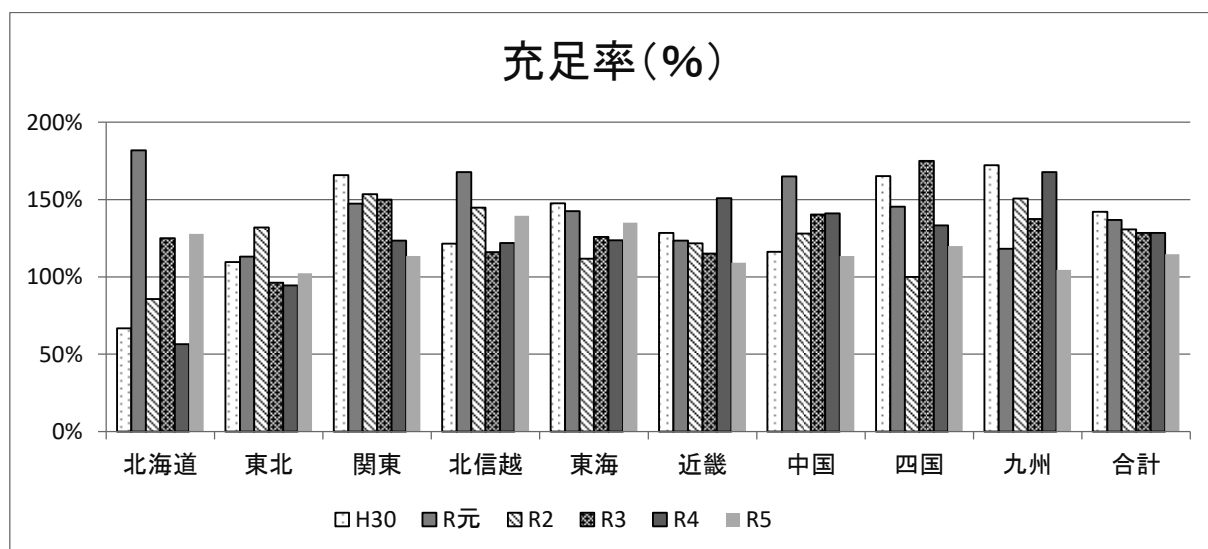
5 工業科教員の再任用に関する調査

(1) 全国状況

調査結果は、23ページ表5のとおりである。(新規採用が321名とすると再任用と合計で690名)

退職者数は602名で昨年度の588名に対して増加した。そのうち369名が再任用として任用され、その率は約66.1%で昨年度とほぼ同様となった。再任用と新規採用者を合わせた数は690名で、充足率は114.6%であった。しかし、昨年同様に都道府県毎に集計した新規採用者数と悉皆調査で集計した本調査では59名の差があり、信頼性の観点から調査方法の改善が必要であると考えられる。

(2) 地区別状況



令和5年度の充足率については、令和4年度と比べ北海道地区、東北地区、北信越地区、東海地区で増加をした。その他の地区では昨年度に比べ減少しているが、どの地区も100%以上の充足率となっている。

しかし、先の欠員状況との比較では、北海道地区を除く全ての地区で欠員が報告されている状況があり、地区集計と全校悉皆調査における齟齬が生じている。今後とも調査方法の改善を図りデータの信頼性を高める必要がある。

表 2-1 令和5年度教諭・実習助手等の欠員状況（人）

学科		北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	合計
		機械系	教諭等	2	16	8	17	8	33	14	14
	実習助手等	2	6	2	10	10	15	4	1	8	58
情報系	教諭等	3	3	0	3	3	7	0	4	6	29
	実習助手等	0	1	0	0	3	5	0	0	1	10
化学系	教諭等	1	4	4	3	3	5	4	6	2	32
	実習助手等	0	2	4	5	3	2	3	1	4	24
電気系	教諭等	0	13	16	10	9	25	19	8	27	127
	実習助手等	0	6	6	10	3	9	2	0.5	6	42.5
窯業系	教諭等	0	1	0	0	4	1	0	0	0	6
	実習助手等	0	2	0	1	4	0	0	0	0	7
建設系	教諭等	2	0	0	9	4	16	6	10	28	75
	実習助手等	1	9	1	10	3	7	4	0	11	46
繊維系	教諭等	0	0	0	1	0	0	0	2	2	5
	実習助手等	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
デザイン系	教諭等	0	1	4	2	0	6	1	3	7	24
	実習助手等	0	0	1	3	3	0	0	1	1	9
その他	教諭等	3	0	1	4	2	3	0	0	1	14
	実習助手等	0	0	0	4	0	4	53	0	7	68
地区合計	教諭等	11	38	33	49	33	96	44	47	102	453
	実習助手等	3	26	14	44	29	42	66	3.5	38	265.5

表 2-2 令和5年度教諭・実習助手等の欠員事由（件）

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	合計
人事行政上の計画的方策	0	9	0	21	8	14	4	7	17	80
異動者未補充	5	6	6	0	4	6	2	0	6	35
突発的状況	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
教員応募者の動行	0	5	3	3	0	1	0	3	1	16
教員選考後の状況	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
地区合計	5	20	9	25	13	21	7	11	24	135

表 2-3 令和5年度教諭・実習助手等の過員状況（人）

学科		北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	合計
		機械系	教諭等	0	2	1	1	0	1	0	0
	実習助手等	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4
情報系	教諭等	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
	実習助手等	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
化学系	教諭等	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	実習助手等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電気系	教諭等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実習助手等	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
窯業系	教諭等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実習助手等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建設系	教諭等	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	実習助手等	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
繊維系	教諭等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実習助手等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
デザイン系	教諭等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実習助手等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	教諭等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実習助手等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地区合計	教諭等	0	4	1	1	0	3	0	0	0	9
	実習助手等	0	3	2	3	0	0	0	0	0	8

表 2-4 令和5年度教諭・実習助手等の過員対策（件）

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	合計
担当教科・科目の変更	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
他科への配置転換	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
教員数の再調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
採用変更の中断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
勧奨退職等の促進	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3
地区合計	0	3	0	5	0	0	0	0	1	9

表3-1 令和5年度新規採用教員の選考状況(人)

地区			機 械 系	情 報 系	化 学 系	電 気 系	窯 業 系	建 設 系	織 維 系	デ ザ イ ン 系	そ の 他	合 計
	応募数											
北海道	応募数	大学新卒	5	0	1	2	0	5	0	0	0	13
		大学既卒	5	0	2	2	0	2	0	0	0	11
	採用者数		4	0	1	4	0	3	0	0	0	12
	採用率(%)		40.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	31.6%
東北	応募数	大学新卒	10	0	1	11	0	8	0	0	0	30
		大学既卒	21	0	2	23	0	26	0	0	0	72
	採用者数		14	0	1	7	0	11	0	0	0	33
	採用率(%)		45.2%	0.0%	33.3%	20.6%	0.0%	32.4%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%
関東	応募数	大学新卒	14	1	2	11	0	13	0	3	0	44
		大学既卒	35	5	7	30	0	10	0	3	0	90
	採用者数		13	1	5	19	0	8	0	4	0	50
	採用率(%)		26.5%	16.7%	55.6%	46.3%	0.0%	34.8%	0.0%	66.7%	0.0%	29.5%
北信越	応募数	大学新卒	2	1	2	5	0	5	0	0	5	20
		大学既卒	9	3	3	8	0	22	0	2	6	53
	採用者数		4	1	2	4	0	5	0	0	3	19
	採用率(%)		36.4%	0.0%	40.0%	30.8%	0.0%	18.5%	0.0%	0.0%	27.3%	25.0%
東海	応募数	大学新卒	16	1	1	16	0	8	0	0	0	42
		大学既卒	28	7	6	20	4	14	0	0	0	79
	採用者数		18	1	2	10	2	6	0	0	0	39
	採用率(%)		40.9%	0.0%	0.0%	27.8%	0.0%	27.3%	0.0%	0.0%	0.0%	24.3%
近畿	応募数	大学新卒	10	0	0	3	0	0	0	0	0	13
		大学既卒	37	0	1	28	0	10	0	5	4	85
	採用者数		15	0	0	10	0	4	0	1	2	32
	採用率(%)		31.9%	0.0%	0.0%	32.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	26.6%
中国	応募数	大学新卒	8	0	0	8	0	4	0	0	0	20
		大学既卒	18	0	9	26	0	5	0	2	0	60
	採用者数		7	0	4	7	0	5	0	0	0	23
	採用率(%)		26.9%	0.0%	44.4%	20.6%	0.0%	55.6%	0.0%	0.0%	0.0%	31.2%
四国	応募数	大学新卒	3	0	0	4	0	1	0	1	0	9
		大学既卒	9	0	1	7	0	9	0	1	0	27
	採用者数		5	0	0	5	0	3	0	1	0	14
	採用率(%)		41.7%	0.0%	0.0%	45.5%	0.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	31.9%
九州	応募数	大学新卒	10	0	0	10	0	3	0	1	0	24
		大学既卒	42	0	10	29	0	25	0	2	0	108
	採用者数		16	0	5	10	0	6	0	1	0	38
	採用率(%)		30.8%	0.0%	50.0%	25.6%	0.0%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	20.1%
全国	応募数	大学新卒	78	3	7	70	0	47	0	5	5	215
		大学既卒	204	15	41	173	4	123	0	15	10	585
	採用者数		96	3	20	76	2	51	0	7	5	260
	採用率(%)		34.0%	16.7%	41.7%	31.3%	50.0%	30.0%	0.0%	35.0%	33.3%	32.5%

表3-2 令和5年度新規採用教員の採用状況（人）

地区		機械系	情報系	化学系	電気系	窯業系	建設系	繊維系	デザイン系	その他	合計	
											合計	%
北海道	大学等新卒者数	3	0	1	2	0	3	0	0	0	9	75.0%
	実習助手過らの任用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	講師からの任用者数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	8.3%
	企業からの転職者数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8.3%
	その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	8.3%
東北	大学等新卒者数	7	0	0	3	0	2	0	0	0	12	36.4%
	実習助手過らの任用者数	2	0	0	2	0	1	0	0	0	5	15.2%
	講師からの任用者数	4	0	1	2	0	7	0	0	0	14	42.4%
	企業からの転職者数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3.0%
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3.0%
関東	大学等新卒者数	3	0	0	5	0	4	0	3	0	15	29.4%
	実習助手過らの任用者数	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3	5.9%
	講師からの任用者数	5	2	3	9	0	3	0	1	0	23	45.1%
	企業からの転職者数	2	0	0	3	0	0	0	0	0	5	9.8%
	その他	3	0	0	1	0	1	0	0	0	5	9.8%
北信越	大学等新卒者数	0	0	2	1	0	2	0	0	2	7	36.8%
	実習助手過らの任用者数	1	0	0	1	0	1	0	0	0	3	15.8%
	講師からの任用者数	0	1	0	1	0	2	0	0	1	5	26.3%
	企業からの転職者数	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	15.8%
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5.3%
東海	大学等新卒者数	10	1	0	5	0	1	0	0	0	17	42.5%
	実習助手過らの任用者数	3	0	1	2	1	1	0	0	0	8	20.0%
	講師からの任用者数	4	0	1	1	0	0	0	0	0	6	15.0%
	企業からの転職者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	その他	1	0	0	2	2	4	0	0	0	9	22.5%
近畿	大学等新卒者数	7	0	0	4	0	0	0	0	0	11	34.4%
	実習助手過らの任用者数	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	6.3%
	講師からの任用者数	6	0	0	3	0	3	0	0	1	13	40.6%
	企業からの転職者数	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	6.3%
	その他	2	0	0	2	0	0	0	0	0	4	12.5%
中国	大学等新卒者数	3	0	0	2	0	3	0	0	0	8	34.8%
	実習助手過らの任用者数	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3	13.0%
	講師からの任用者数	3	0	3	3	0	1	0	0	0	10	43.5%
	企業からの転職者数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4.3%
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4.3%
四国	大学等新卒者数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	7.1%
	実習助手過らの任用者数	2	0	0	1	0	1	0	0	0	4	28.6%
	講師からの任用者数	3	0	0	1	0	0	0	1	0	5	35.7%
	企業からの転職者数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	7.1%
	その他	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3	21.4%
九州	大学等新卒者数	6	0	0	3	0	2	0	0	0	11	28.9%
	実習助手過らの任用者数	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	5.3%
	講師からの任用者数	8	0	3	5	0	3	0	1	0	20	52.6%
	企業からの転職者数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2.6%
	その他	1	0	2	1	0	0	0	0	0	4	10.5%
全国	大学等新卒者数	39	1	3	26	0	17	0	3	2	91	34.7%
	実習助手過らの任用者数	9	0	4	9	1	6	0	1	0	30	11.5%
	講師からの任用者数	33	3	11	26	0	19	0	3	2	97	37.0%
	企業からの転職者数	5	0	0	6	0	3	0	0	1	15	5.7%
	その他	10	0	2	9	2	6	0	0	0	29	11.1%
	採用者数の計	96	4	20	76	3	51	0	7	5	262	100.0%

表4 平成30年度から令和4年度都道府県別設備予算（万円）

地区		都道府県・単独予算					増減率	備考
		H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度		
北海道	北海道	0	0	0	0	0	0.0%	
	合計	0	0	0	0	0	0.0%	
東北	青森	71,846	5,740	7,325	97,490	4,549	-95.3%	
	岩手	5,655	0	2,640	2,439	2,148	-11.9%	
	宮城	44,532	1,955	3,570	13,442	1,661	-87.6%	
	秋田	1,416	1,199	7,045	2,956	1,381	-53.3%	
	山形	5,020	2,925	0	1,849	305	-83.5%	
	福島	21,350	13,699	17,886	73,599	7,167	-90.3%	
	合計	149,819	25,518	38,466	191,775	17,211	-91.0%	
関東	茨城	1,295	0	1,259	950	3,074	223.6%	
	栃木	1,000	1,000	5,000	5,000	2,034	-59.3%	
	群馬	18,986	18,744	12,192	4,544	12,201	168.5%	
	埼玉	9,700	0	9,867	9,767	8,050	-17.6%	
	千葉	0	29,536	0	0	0	0.0%	
	東京	28,521	0	23,235	48,263	144,983	200.4%	
	神奈川	8,250	20,000	20,100	3,058	0	-100.0%	
	山梨	1,368	0	0	0	0	0.0%	
	合計	69,120	69,280	71,653	71,582	170,342	138.0%	
北信越	新潟	11,912	0	9,661	1,488	10,212	586.3%	
	長野	1,185	426	3,743	1,058	2,578	143.7%	
	富山	3,000	3,000	3,000	3,000	0	-100.0%	
	石川	57,756	5,354	8,390	34,317	4,655	-86.4%	
	福井	3,423	886	4,519	28,362	7,579	-73.3%	
	合計	77,276	9,666	29,313	68,225	25,024	-63.3%	
東海	静岡	12,000	12,000	12,000	600	6,000	900.0%	
	愛知	23,778	44,981	18,952	4,778	9,878	106.7%	
	岐阜	5,769	7,015	4,648	700	1,665	137.9%	
	三重	7,336	14,403	96,226	341	0	-100.0%	
	合計	48,883	78,399	131,826	6,419	17,543	173.3%	
近畿	滋賀	1,345	1,700	1,818	0	0	0.0%	
	京都	0	4,800	553	500	880	76.0%	
	大阪	1,474	7,160	6,920	6,920	8,393	21.3%	
	兵庫	2,612	1,520	1,355	910	1,013	11.3%	
	奈良	567	1,520	1,000	1,000	980	-2.0%	
	和歌山	1,489	1,489	0	5,500	8,000	45.5%	
	合計	7,487	18,189	11,646	14,830	19,266	29.9%	
中国	鳥取	3,599	2,051	1,845	15,435	0	-100.0%	
	島根	4,683	11,832	3,017	25,002	86,118	244.4%	
	岡山	1,346	2,802	2,008	33,868	5,009	-85.2%	
	広島	1,017	1,188	1,135	1,305	1,240	-5.0%	
	山口	13,576	12,718	12,485	54,640	6,373	-88.3%	
	合計	24,221	30,591	20,490	130,250	98,740	-24.2%	
四国	徳島	3,885	3,657	3,498	2,000	2,200	10.0%	
	香川	0	3,228	0	0	0	0.0%	
	愛媛	957	873	2,576	36,824	0	-100.0%	
	高知	1,625	665	279	25,385	1,300	-94.9%	
	合計	6,467	8,423	6,353	64,209	3,500	-94.5%	
九州	福岡	8,065	8,092	8,233	8,366	0	-100.0%	
	佐賀	1,280	588	7,902	87,977	8,370	-90.5%	
	長崎	5,810	7,040	5,880	0	2,649	100.0%	
	熊本	2,193	1,712	0	13,930	2,500	-82.1%	
	大分	774	0	2,500	600	3,317	452.8%	
	宮崎	1,876	2,718	1,493	275	273	-0.7%	
	鹿児島	3,000	6,600	10,938	51,961	5,196	-90.0%	
	沖縄	36,445	35,568	5,115	15,466	0	-100.0%	
	合計	59,443	62,318	42,061	178,575	22,305	-87.5%	
総合計	442,716	302,384	351,808	725,865	373,931	-48.5%		

表5 令和5年度工業科教員の新規採用及び再任用の状況

		北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	合計
A	令和4年度末退職者	18	83	125	48	57	76	52	30	113	602
B	退職者のうち再任用となった者	13	46	77	37	34	49	35	23	55	369
C	B/A(%)	72.2%	55.4%	61.6%	77.1%	59.6%	64.5%	67.3%	76.7%	48.7%	66.1%
D	令和5年度新規採用教員	10	39	65	30	43	34	24	13	63	321
E	充足率(%) (B+D)÷A	127.8%	102.4%	113.6%	139.6%	135.1%	109.2%	113.5%	120.0%	104.4%	114.6%

あ と が き

学校に限らず組織を経営するには、ニーズに対して「ヒト・モノ・カネ」を適所に配置し、それらの有機的な連携、各分野の業務の効率化を図り、最大の効果を引き出すことが求められる。そのためには、それらに関連する基礎的なデータの収集・分析が欠かせない。

そこで本委員会では、「ヒト（人材）」について主に「工業科教員等の年代別人数の調査」「工業科の教員の過欠員」、「新規採用教員の選考・採用」、「工業科教員の再任用」の4つの調査を行い、「モノ・カネ（設備・予算）」についても平成23年度から「工業高校の設備整備」の調査を加えて行い、将来に備えることとしている。

本調査では、データの集計や分析の方法などに継続性を持たせ、蓄積された結果をさらに分析することで経年による傾向の変化と言う重要な知見を得ることを可能にしている。一方で、平成25年度から調査回答方法を変更したことに伴い、小学科系の分類や集計方法を見直した。その結果、一部の調査では継続性が保てておらず、本調査の結果を活用する上で注意が必要となっている。

また、各都道府県の事情や制度及び解釈等の違いから、回答されたデータには相当の曖昧さが含まれており、必ずしも厳密な数値とは言えない面があると考えられる。それらを踏まえた上で、傾向や方向性の概略を捉える資料として活用いただきたい。

校務多忙の折、本調査にご協力いただいた会員校及び都道府県代表校長の先生方に心から感謝申し上げます。また全工協会事務局には調査回答方法の電算化の推進で本調査・研究に多大のご尽力をいただいた。改めて深く御礼を申し上げます次第である。

資 料

調 査 回 答 用 紙

年度別調査項目一覧表

(教職員制度委員会、施設設備委員会、学校経営委員会)

令和5年度調査研究部各調査Web入力手順

手順1. 責任者の登録（校長先生または学校管理職の方が行う作業）

令和5年4月1日付で、本協会より送付の『学校長専用 各種設定マニュアル（2023年度版）』をご参考にしていただき、調査研究部会アンケートの責任者をご登録ください。尚、昨年度ご登録いただいた責任者に変更が無い場合は、手順2から行ってください。

※ ご登録いただく責任者が作業をする時間もお考慮の上、早目に責任者のご登録をお願いいたします。

※ 『学校長専用 各種設定マニュアル』については、ICT担当の中村和生までお問い合わせください。

手順2. ログイン（手順1で登録された責任者が行う作業）

事前に、『責任者コード』と『責任者パスワード』を校長先生にご確認いただき、以下の通り回答ページへログインしてください。

① 本協会ホームページにアクセス（全工協会で検索・URL『<https://zenkoukyo.or.jp>』）

② 画面右上の『ログイン』ボタンをクリック

③ 『責任者』をクリック

④ 表示された入力欄に『学校コード』、『責任者コード』、『責任者パスワード』を半角で入力し、『認証』ボタンをクリックし、ログインする

※ 「学校コード」は貴校の本協会における学校番号4桁です。

※ 入力欄が正常に表示されない場合は、ご利用のWebブラウザに問題があります。

本協会ホームページ上部の『重要なお知らせ』をご確認ください。

正常にログイン出来ると学校ポータルのページに遷移します。

学校ポータルのページに遷移せず、④の入力欄が消える場合は、入力した内容が誤っています。今一度、『責任者コード』と『責任者パスワード』を校長先生にご確認ください。

また、学校ポータルに遷移したのに手順3のボタンが表示されない場合は、ログイン時のコードとパスワードが別物です。本調査用のものでログインしてください。

手順3. 調査への回答（手順1で登録された責任者が行う作業）

ログイン後の学校ポータルのページにて『調査研究部各調査への回答』ボタンをクリックすると調査研究部会アンケート調査のページに遷移します。

4つの調査がありますので、回答する調査を選択してください。

回答ページには各設問がありますので、設問に沿ってご回答ください。

回答ページ最下部の『回答完了』ボタンをクリックすると、クリックする前に入力した内容が保存されます。回答完了後は必ずボタンをクリックしてください。

尚、期間内は『回答完了』ボタンをクリックした後でも編集可能です。

《回答入力上の注意》

回答ページにて未入力の時間が5分以上経過した場合、ログイン情報が失われる可能性があります。ログイン情報が失われた状態で入力した内容は、一切回答したことにはなりません。

5分以上離席する場合は、入力データを保存するため『ログアウト』ボタンをクリックしてログアウトしてください。回答を再開する場合は再度手順2から行ってください。また、未入力の時間が5分以上続いてしまった場合も、一度ログアウトして再度手順2から行ってください。

問合せ先

責任者の登録やログイン方法に関すること：ICT担当 中村和生

E-Mail : ict@zenkoukyo.or.jp

調査趣旨や入力内容に関すること：附属工業教育研究所 宍戸健一

E-Mail : shishido@zenkoukyo.or.jp

2023年度 学校経営委員会 調査1(代表校長用)

ログアウト

[学校ポータルに戻る](#)

【記入上の注意】

- (1) 都道府県代表校長先生にお願いする調査です。
- (2) 回答途中で5分以上未入力が続くと、ログイン情報が失われることがあります。「ログアウト」を押してから退席してください。それまでの回答内容は保持され、再度ログインした際に、再現されます。
- (3) 回答が完了したら「回答完了」ボタンを押してください

工業科教員等の年代別人数および過欠員に関する調査

I あなたの所属する都道府県における各学科系列で教える工業科教員等の年代別人数について(習熟度別、初任研配置等の加配は含めません)(2023年4月1日現在)

上段: 教員の人数 下段: 実習助手・実習担当教諭・実習指導員の人数

学科系列	年齢						合計
	18~21	22~29	30~39	40~49	50~60	61~再任用	
機械	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
自動車	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
電子機械	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
情報	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
化学	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
電気	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
電子	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
窯業 (セラミック)	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
建築	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
土木	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
設備	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
インテリア	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
繊維	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
デザイン	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
総合学科	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
その他	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人
合計	____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人	____人 ____人

II あなたの所属する都道府県における各学科系列ごとの工業科教員等の過欠員について(習熟度別、初任研配置等の加配は含めません)

(1) 教諭と実習助手の欠員状況とそのおもな事由 (2023年4月1日現在)

学科系列	欠員数		欠員事由 (注)主な「事由」を選択してください。
	教諭	実習助手	
機械	_____人	_____人	選択してください
自動車	_____人	_____人	選択してください
電子機械	_____人	_____人	選択してください
情報	_____人	_____人	選択してください
化学	_____人	_____人	選択してください
電気	_____人	_____人	選択してください
電子	_____人	_____人	選択してください
窯業(セラミック)	_____人	_____人	選択してください
建築	_____人	_____人	選択してください
土木	_____人	_____人	選択してください
設備	_____人	_____人	選択してください
インテリア	_____人	_____人	選択してください
繊維	_____人	_____人	選択してください
デザイン	_____人	_____人	選択してください
総合学科	_____人	_____人	選択してください
その他	_____人	_____人	選択してください

(2) 教諭と実習助手の過員状況及びそのおもな対策 (2023年4月1日現在)

学科系列	過員数		過員対策 (注)主な「対策」を選択してください。
	教諭	実習助手	
機械	_____人	_____人	選択してください
自動車	_____人	_____人	選択してください
電子機械	_____人	_____人	選択してください
情報	_____人	_____人	選択してください
化学	_____人	_____人	選択してください
電気	_____人	_____人	選択してください
電子	_____人	_____人	選択してください
窯業(セラミック)	_____人	_____人	選択してください
建築	_____人	_____人	選択してください
土木	_____人	_____人	選択してください
設備	_____人	_____人	選択してください
インテリア	_____人	_____人	選択してください
繊維	_____人	_____人	選択してください
デザイン	_____人	_____人	選択してください
総合学科	_____人	_____人	選択してください
その他	_____人	_____人	選択してください

Ⅲ 2023年度公立高校工業科教員等の確保について(ご面倒でも教育委員会でお調べの上ご回答ください)

(1) 2023年度の工業科教諭の選考及び採用について(2022年4月1日～2023年3月31日実施)

学科系列	選考状況		採用者の前歴状況						採用者計 C+D+E+F+G
	応募数		応募者計 A+B	新卒者数 C	実習助手からの 任用者数 D	講師からの 任用者数 E	企業からの 転職者数 F	その他 G	
	新卒者数 A	その他(既卒者) B							
機械	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
自動車	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
電子機械	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
情報	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
化学	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
電気	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
電子	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
窯業(セラミック)	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
建築	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
土木	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
設備	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
インテリア	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
繊維	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
デザイン	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
総合学科	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人
その他	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人	_____人

Ⅳ 現在、国からの基準設備費は一括交付金の中に含まれていて、旧来の個別予算としての旧産振費は配布されていません。各都道府県が独自に工業教育のために予算化された特別装置等の合計予算額を入力して下さい。

①2022年度の工業設備購入費 各都道府県の備品費(特別装置費) _____ 万円

②現在、特に要望したい設備備品を具体的に3つあげてください。
(例:3Dプリンターなど)

回答完了

